

## ようこそ校友会へ

卒業・修了おめでとうございます。今からあなたも校友会会員です。

専修大学校友会は、卒業生相互の親睦と福祉の増進、そして母校の発展を図ることを目的に設立されました。現在、卒業生は約24万人に上り、315の校友会支部が活動しています。年齢や地域・職域を超えた、密接な交流を図るために環境整備を進めています。母校への支援を推進する校友会のネットワークから、新しい出会いの輪を広げてください。

支部活動の詳細は[校友会ホームページ](#)をご覧ください。

## 校友新社長紹介

◇オリジン東秀(株)

高梨 和人(たかなし・かずと=昭55経済)

3月14日発表。6月開催予定の取締役会で正式決定。同社は持ち帰り弁当・惣菜チェーンを首都圏で展開している。

## 無料法律相談会前期の開催日程

校友会の職域支部である専修大学法曹会が主催し、校友会および今村法律研究室が後援する「無料法律相談会」の前期の開催日程は次の通り。

なお、受け付けが今村記念法律事務所(電話03・3264・1721、FAX03・3264・1722)に変わりますのでご注意ください。

【日程】※毎回水曜日

▽4月＝19日

▽5月＝17日、24日、31日

▽6月＝7日、14日、21日、28日

▽7月＝5日、12日、19日

【時間】午後4時30分～7時30分

【場所】今村記念法律事務所＝神田8号館1階

## 《専大校友を訪ねて》

### 中国での仕事は先入観を捨てて

松下電器産業の「FA制度」で海外営業にチャレンジ 小林龍雄さん(平12商)

社内フリーエージェント(FA)制度に挑戦し、国内営業から海外営業に転じたのが2年前。香港での家電製品の商品企画、販売戦略を担う。「日本で『当たり前』が中国ではあかんことが多い。先入観なしで臨んでいます」。中国経済のダイナミズムを肌で感じながら「2年後の北京五輪までに中国赴任を」と意欲を燃やす。

“格闘球技”ラクロスに打ち込んだ学生時代。独学で勉強していた中国語を「核となるスキルにしたい」と休学し、台北の大学に2年間、単身で語学留学した。現地の人々と触れ合う機会に恵まれた。「台湾には義理と人情を大切にしている温かい人が多く、文化も中国本土とは違って、そこでの生活は貴重でした」。

就職は、語学を生かし「モノを作り、トレンドを生み出す仕事を」とメーカーを中心に活動。「細やかな気配りで接してくれた」松下電器産業に決めた。東京育ちで、本社がある大阪は馴染みがなかったが、持ち前の柔軟性ですぐに、「商いの町」の水に溶け込んだ。

4年間の国内営業で量販店での乾電池販売を担当。培った営業力を武器に、海外営業では香港の代理店とマーケティングプランを企画・立案する。世界中のメーカーが参入している香港。「高くても良いものは売れる」日本の感覚での交渉は「No Meaning」と一蹴される。日本では敬遠される赤を基調とした製品が好まれたりする。「常に現場を意識すること。その文化に応える製品を生み出す感覚を養うこと」。最近IHクッキングヒーターを海外初の香港市場に登場させた。

中国の魅力は「若い世代の強い向上心」だ。夢をおくすることなく語る姿に接すると、学生時代の情熱を呼び覚ます。

「ビジネスは信頼関係の積み重ね」と実感。その上で「自分を磨き、仕事以外での“引き出し”を持つことが大事」。後輩に送るメッセージでもある。

